

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

水道部下水道課

水道部長 村瀬 浩之

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
27-006	雨水整備事業	あり	C	雨水管渠の整備については、半田東排水区内の浸水被害対策として新たな管渠を布設し、向山排水区では老朽管対策として管渠の布設替工事を実施した。 排水ポンプ場に関しては、北浜田・若宮排水ポンプ場の耐震化及びストックマネジメント計画に基づき、設備の改築・更新の実施設計を策定した。 課題としては、現在の耐震基準見直し以前に整備された既設管渠について、耐震診断等を実施する必要がある。	改善 推進	雨水管渠の整備については、浸水被害の軽減を図るために継続して実施する。また、災害時においても重要な幹線等の排水能力を確保するため、ストックマネジメント及び耐震化対策を組合せた計画を策定して、管渠の改築・更新を実施していく。 排水ポンプ場については、老朽化が進んでいる北浜田・若宮排水ポンプ場の耐震化及びストックマネジメント計画による施設の改築・更新を実施し、排水能力を適正に確保していく。
27-007	汚水整備事業	あり	C	旧区画整理地内において、老朽管を更新する布設替工事は計画どおりに実施することができた。また、送煙調査を汚水本管1,678m、184世帯で実施した結果、異常が確認された31世帯の全世帯に対し、戸別訪問、修繕等を年度内に実施することができた。排水設備からの不明水が確認され、これを修繕したことで不明水が微減したと考えられる。よって、不明水対策は、排水設備の不明水調査に取り組むことが喫緊の課題である。 生活環境の改善や使用料収入の増加を図るため、今まで以上に接続率の向上策に取り組む必要がある。	改善 推進	面的な整備は概ね完了しており、今後は、既存施設の機能維持の確保及び重要幹線の耐震化に取り組んでいく。また、最重要課題である不明水対策は、本管、取付管だけでなく排水設備まで掘って調査を行い、不明水の減少を図っていく。 ストックマネジメント計画に基づく事業の平準化及び適正な使用料の見直しを行い、経営基盤の安定を図っていく。また、戸別訪問等による接続率の向上に取り組んでいく。
課等長	1次評価(元年度の総括評価)					
C	雨水整備事業については、半田東排水区内の浸水被害対策として新たな管渠を布設し、向山排水区では老朽管対策として管渠の布設替工事を実施した。今後も、浸水被害の軽減につながる管渠の整備を行っていく。 また、北浜田・若宮排水ポンプ場について、ストックマネジメント計画に基づいた設備の更新や耐震化実施計画を策定したことにより、令和2年度から工事を実施し、排水能力の維持を図っていく。 汚水整備事業については、老朽管の布設替工事や中央汚水1号幹線の耐震化実施設計を実施した。今後の布設替工事は、対象管渠を再検討する。また、不明水対策は、宅地内からの侵入水の調査を進める。 接続率については、目標値を達成したが、今後は経済的な理由などから接続が遅くなる世帯が残り、接続率の伸びが鈍化することが想定されるため、さらに効果的な対策を実施する必要がある。					
部等長	2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
C	雨水事業は、近年増加傾向がみられるゲリラ豪雨に対する浸水対策として、既存のストックを最大限に活かすための改修計画を策定すること。また、施設の更新、耐震化について、優先度や費用の平準化を考慮した計画に改め、将来を見据えた整備を進めていくこと。 汚水事業は、不明水対策について、これまでの実施内容の効果をしっかり検証し、対策を講じること。					